

「児童の読書活動を深めるために－絵本の読み聞かせ活動を通して－」

兵庫教育大学大学院修士課程

教育実践高度化専攻

小学校教員養成特別コース

M07334E

野田佑樹

1. 研究の目的

筆者は実地研究において、第一学年を担当していた。授業や日々の生活を児童と共に過ごしていく中で、学校現場でしか気付くことのできない児童の様子を知ることができた。

その中で、児童の読書に対する意識に個人差があることに気が付いた。各児童の過ごし方や選ぶ本を見ていると児童によって読書傾向や読書習慣に大きな違いがあることが伺えた。また授業の中でも発言する内容や書かれた文章などにも違いが生じているように感じられた。

近年、児童の読解力の低下が問題視されている。

そこで筆者は、児童の読書活動や読書習慣の違いは、学習活動及び児童の発達にも影響するのではないかと、いう一つの仮説を立てた。この仮説を下に、実地研究において定期的な絵本の読み聞かせを行い、児童に対するアンケートを行っていくことにした。

実地研究の資料を下に、読み聞かせ活動を通して児童の読書活動や読解力に変化があるかどうかを調査し、児童の読書活動を深めるため、そして児童の読解力を向上させるためにどのように教員は支援を行っていくべきかを模索することが本報告書の目的である。

2. 研究報告書の構成

第1章 問題意識と研究の目的

[はじめに] 研究の動機

[児童の読書活動に関する背景] 児童の読書活動に関する法案や現在の状況

[読み聞かせについて] 読み聞かせの歴史的背景とその必要性

[これまでの学校現場における読書活動推進における実践]

第2章 研究方法

[対象] 明石市立A小学校 1年1組の児童 20名

[調査期間] 2009年1月～3月(実地研究Ⅱ)

[調査方法] アンケート、観察、実習日記

[絵本の選定について]

[分析方法] アンケート結果、実習記録、絵本分析

第3章 結果と考察

第1節 [結果]

第2節 [考察]

第1項 児童の変化についての考察

第2項 読み聞かせを行った絵本についての考察

(1) 読み聞かせを行った20冊の分類

(2) 考察 児童が印象に残った三作品

1) 「まんじゅうこわい」についての考察

2) 「ふしぎなナイフ」についての考察

3) 「ふぶきのあした」についての考察

第4章 まとめ

[総合考察 1] 絵本の読み聞かせ活動を活用して
児童の読書活動を深めるには

[総合考察 2] 読み聞かせ活動を活用した国語科の
授業作りについて

[今後の課題]

3. 研究の対象と方法

本研究の対象となった児童は、明石市立A小学校第一学年1組の児童20名である。

研究の方法としては、各週の最終日にアンケートを行い、その週に読んだ絵本についての感想やこれから読んで欲しい本など児童の読書傾向を調査した。また、絵本の読み聞かせ活動を行う以前と以後で本や読書に関するアンケートを行い、児童の現状を把握し、絵本の読み聞かせが児童の読書活動や読書意欲にどのような影響を及ぼしているのかを調査した。

① 本及び読書に関する調査(読み聞かせ活動の事前・事後実施)

② 読み聞かせを行った絵本についての調査(各週毎に調査、計6回実施)

絵本の選定については、基本的には筆者が選んだものを読み聞かせすることになっているが、それでは選定する絵本に偏りが生じてしまう恐れがある。そこで、できるだけ偏りを無くすためにいくつか基準を設けたり、児童の意見を取り入れたりしながら選定を行った。

4. 研究の成果

本研究を通して見られた児童の変化を以下に挙げている。

① 児童は読み聞かせ活動を肯定的に受け取っている。

② 読み聞かせ活動中の児童は非常に集中している。

③ 児童にとって文章量や情報量が多いと思われる物語でも、読み聞かせ活動を行うことで、内容を理解したり楽しんだりすることができる。

加えて「読み聞かせ活動の持つ独自の利点」についても考察を述べている。

5. 今後の課題

実地研究における絵本の読み聞かせ活動は、まだまだ課題の残るものであった。

第一に、授業と読み聞かせ活動とのつながりについてである。その点については、改善した指導案を作成している。

第二に、児童から持ってくる絵本や、他学年の児童による選定などをより取り入れていく必要があると感じた。その理由は以下のことに記している。

① 児童同士がお互いを知るきっかけとなる。

② 教師が児童の読書環境を知る基準となる。

③ 与えられた活動から主体的な活動となる。

④ 児童の選定眼を鍛えられる。

こういった課題を踏まえ、今後の教育現場でより効果的な読み聞かせ活動を行っていきたい。

主任指導教員 大西 久